

第6学年 社会科学習指導案

ろ組 男子16名 女子17名 計33名
指導者 藤崎 智大

1 小単元 源頼朝と武士の世の中

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに藤原道長や紫式部をはじめとする、貴族の華やかなくらしについて追究することを通して、京都に都が置かれた頃に日本風の文化が起こったことについて捉えてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、貴族が栄えた後の世の中の動きについて追究したいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、世の中の様子や変化、人物の働きなどに着目し、獲得した事実を比較したり関連付けたりしながら、源平の戦いの様子や鎌倉幕府の政治の仕組み、元との戦いの影響などを追究する活動を通して、武士が貴族に代わって政治を始め、勢力を広げていったことを捉えさせようとするものである。また、この時代の人物の働きや文化遺産に対する関心を高めるとともに、年表や絵図、文書等などの資料を活用し、時代の特色や事象の相互の関連、人物の働きの意味について考える力やそれを分かりやすく説明する力を高めようとするものである。

このような学習は、室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画を基に、室町文化を追究する学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

源平の戦いを経て平氏を倒した源頼朝は、初めての武士の政権である幕府を鎌倉に開いた。頼朝は、御恩と奉公という土地を仲立ちにした強い主従関係を御家人と築いたり、有力な家来を全国に守護や地頭に任命したりして、幕府の支配を強めていった。承久の乱の後、執権の北条氏を中心とした幕府は、武士による政治の仕組みを整え、力が全国まで及ぶようになっていった。その後、北条時宗が執権の時代、日本に攻めてきた元との戦いにおいて、幕府は九州の御家人たちを動員して退けるが、褒美を十分にもらえなかった御家人たちが不満をもち、幕府の力は衰えていった。

そこで、ここでは、武士による政治が始まり、武士の力が全国に及ぶようになったことを捉えさせるために、幕府の政治の仕組みについて、幕府と御家人との関係に着目させ、幕府が御家人と結んだ領地を仲立ちにした主従関係について具体的に捉えさせることが大切である。

そのために、まず、武士のくらしについて追究させたり、略年表を基に鎌倉時代に起きた出来事を読み取らせたりして、「武士は、どのように勢力を広げていったのか。」という問題意識を基に学習問題を設定し、武士による政治についての追究意欲を高めたい。次に、予想を基に追究計画を立てさせ、「源平の戦い」「幕府の政治」「元との戦い」という追究の柱に沿って、絵図や年表などの資料を活用しながら追究させていく。その際、幕府の政治の仕組みや人物の働きについて、当時の出来事と関連付けながら追究させていく。さらに、追究の過程で獲得した事実や事実を基に見いだした考えを再構成させるために、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。そして、武士の世の中の様子やそれに対する自分の考えを整理することができるようするために、鎌倉時代の特色について新聞形式でまとめる活動を位置付ける。

これらの学習は、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を育むとともに、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力やそれを適切に表現する力を高めることになる。社会的事象を、時期や時間の経過や事象や人々の相互関係に着目して捉え、事象を比較したり関連付けたりする社会的な見方・考え方の成長につながる。

このような学習を積み重ねることで、社会生活の様々な場面において、多面的・多角的に考え、公正に判断しながら、よりよい社会の実現に向けて、主体的に社会参画しようとする人を育むことになる。

(3) 子どもの実態(調査人数 33 人, 質問紙法, 重複回答, 主な項のみ記述)

項目 1 鎌倉時代の人物で知っている人物 ※複数回答	
(人 物) 源頼朝 (12), 源義経 (5), 北条政子 (5), 北条時宗 (3), 平清盛 (1)	
項目 2 武士について知っていること ※複数回答	
武器を持っている人(22) 戦う人(18) 護衛する人(10) ちょんまげがある人(4)	
項目 3 鎌倉時代のことで学習したいこと ※複数回答	
活躍した人物(30), くらし(28), 出来事(26), 文化(19)	
項目 4 資料活用の技能について(絵図・年表)	
(1) 資料から必要な情報の読み取り	(25)
(2) 資料に表されている事柄の全体的な傾向	(18)
(3) 目的に応じた資料の選択	(23)
項目 5 社会的な思考・判断・表現について(思考面)	
(1) 時代の特色を考える力(31)	
(2) 政策の意味を考える力(19)	

子どもたちの多くは、鎌倉時代の代表的な人物として、源頼朝や源義経などを挙げている子どももいるが、その人数は少なく、挙げた人物の働きや事象との関連について捉えている子どもは少ない(項目 1)。また、武士については、武器の所持や戦う人といった外見的な特徴を挙げている子どもが多い(項目 2)。これは、メディアから、一面的な情報を基に武士について認識し、武士の戦う理由やくらしの背景まで、捉えきれていないからだと考える。鎌倉時代について、世の中の出来事や人物について関心をもつ子が多い(項目 3)。これは、これまでの歴史学習で各時代の世の中の様子やその時代に活躍

した人物を中心に学習してきたからだと考える。また、資料活用の技能については、絵図や年表を活用して、問題を追究してきたことで身に付きつつある(項目 4)。社会的な思考・判断・表現については、多くの子どもが、時代を比較して特色を考えることはできるが、人物が行った政策の意味を考える力については十分に身に付いているとは言えない(項目 5)。これは、事象を比較して差違点を見いだす考え方は身に付きつつあるが、事象の因果関係について事実を関連付けて見いだす考え方が十分に身に付いていないからだと考える。また、学習の中で活用した追究の視点や思考の方法を子ども自身が自覚していなからだと考える。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。

単元の追究過程においては、武士による政治が確立される様子を具体的に捉えさせるために、地図や絵図、年表等を基に獲得した事実を基に、平安時代の様子と比較させたり、幕府の政治の仕組みや人物の働きを当時の出来事と関連付けたりさせながら、「源平の戦い」「鎌倉幕府の政治」「元との戦い」について、主体的に追究させていく。その際、社会的な見方・考え方を能動的に働かせることができるようにするために、追究の見通しをもつ際に、追究の視点や方法を話し合う場を設定したり、追究の振り返りの際に、その価値を味わわせるための追究過程を振り返る場を設定したりする。

ア まず、武士と貴族の屋敷の想像図を比較させ、武士が領地を守るために武装していることを捉えさせる。次に、鎌倉時代の初めの守護の分布図を基に武士の力が全国的に及んでいるという事実を基に、「武士は、どのように勢力をひろげていったのだろうか。」という問題意識をもたせ、略年表を基に、源平の戦い、幕府の政治の仕組み、元との戦いの様子について追究したいという意欲を高めさせたい。そして、子ども一人一人の予想を表出させながら追究計画を立てさせ、自分なりの考えを基に見通しをもって追究する喜びを味わわせていきたい。

イ 頼朝の開いた鎌倉幕府が武士中心の政治を確立する様子を明らかにするために、まず、「源平合戦での戦い」について、源氏が平氏に勝つことができた背景に着目させ、義経の戦いの活躍や武士達の願いを関連付けて、源頼朝が東国の武士達を味方につけ、それまでの貴族の政治を踏襲し権勢を誇っていた平氏を倒して鎌倉幕府を開いたことを捉えさせたい。次に、「幕府の政治」について、源頼朝と御家人の關係に着目させ、幕府の組織図や御家人との關係図等を基に、土地を仲立ちにした主従關係や、鎌倉と地方とをつなぐ政治の仕組みを捉えさせる。さらに、「元との戦い」について、その影響に着目させ、懸命に戦った御家人の願いと幕府が御家人に十分な恩賞を与えなかったことを関連付けて、幕府と武士の關係が崩れていったことを捉えさせていきたい。

ウ 追究した結果、武士の政治の始まりについて分かったことや考えたことを再構成させるために、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。また、武士の世の中の様子やそれに対する自分の考えを整理することができるようにするために、鎌倉時代の特色について新聞形式でまとめる活動を位置付ける。

3 目 標

- (1) 武士の政治やそれにかかわる人物に関心をもち、意欲的に追究しようとすることができる。
 - (2) 鎌倉幕府と武士との関係、元との戦いの様子とその影響について、時代背景やそれぞれの歴史的事象を関連付けて考えたことを説明することができる。
 - (3) 年表や絵図などの資料を活用し、武士の政治や人物の働きについて必要な情報を読み取ったことを、文や図にまとめ整理することができる。
- ・ 武士による政治が始まり、源頼朝のつくった鎌倉幕府が、御家人と「御恩」と「奉公」の主従関係を結ぶとともに、守護・地頭を置いて全国を支配する政治体制を確立したことや、元との戦いによって幕府の力が衰えたことを捉えることができる。

4 指導計画(全8時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	1 武士の登場やくらしについて調べ、武士が力をつけてきた様子を基に学習問題を設定する。 武士は、どのようにして勢力を広げることができたのだろうか。	武士のくらしは、貴族のくらしにくらべて、質素なくらしをしているな。	② 絵図(貴族と武士の屋敷の様子想像図) ○ 武士が自分の土地をととても大切にしていたことを捉えさせるために、貴族と武士の屋敷の様子を比較させ、読み取った差違点を基に、武士のくらしの特徴について話し合わせる。
	2 学習問題について予想を基に、追究計画を立てる。 [調べる内容] ○源平の戦いの様子 ○幕府の政治の仕組み ○元との戦いの影響 [活用する資料] ○教科書 ○資料集 ○年表	武士が貴族にかわり、全国を治めていったのだな。 なぜ、武士は幕府の政治勢力を広げることができたのか。と貴族の政治と何か違うのかな。	② 地図(鎌倉初期の守護の分布図) ○ 武士が勢力を広げた経緯に問題意識をもたせるために、守護の分布図や貴族から武士に移った事実を基に、調べたいことを話し合わせる。
	3 鎌倉幕府が全国を支配できた理由について追究する。 (1) 源平の戦いの様子について追究する。(本時)	頼朝の開いた幕府が、勢力を拡大した経緯や理由について調べてみたいな。	② 略年表(鎌倉時代) ○ 武士中心の政治が確立した様子について追究できるように、略年表を基に「源平の戦い」「武士による政治」「元との戦い」の柱で追究させるようにする。
	源平の戦いの様子	政治を思い通りに動かす平氏に、他の武士は不満をもち、武士は頼朝の味方をしたのだな。	② 絵図(屋島の戦い) ○ 義経が源平の戦いで活躍したことを捉えさせるために、屋島の戦いの様子を提示し、義経の戦い方の工夫について話し合わせる。
調べる	源平の戦いの様子	源平の戦いで平氏が倒れ、源氏が世の中を治めるようになったのだな。	② 数値(源平の戦いの兵力) ○ 頼朝が領地を認めることで武士を従えていったことを捉えさせるために、源平の兵力を提示し、武士達が頼朝に従った理由を、武士の土地に対する思いを関連付けて話し合わせる。
	(2) 幕府の政治の仕組みについて追究する。	幕府は、御家人の領土を認め、戦いのために、戦が報酬として領地を授けたり、戦ったのしたのだな。	② 図(ご恩と奉公) ○ 幕府が土地の仲立ちによる主従関係によって武士を従えたことを捉えさせるために、「御恩」と「奉公」の関係図を基に将軍と御家人の関係や幕府の政治の仕組み等について考えさせる。その際、島津家の働きとそれに対する幕府への対応を具体例として提示する。
	幕府の政治の仕組み	幕府と御家人は、土地を仲立ちとした強い主従関係で結ばれていたのだな。	② 蒙古襲来絵詞 ○ 御家人が元とどのようにして戦ったのかを捉えさせるために、戦い方の様子に着目させ、日本軍と元軍との違いについて話し合わせる。
	(3) 元との戦いの影響について追究する。	この頃から島津氏と鹿児島は関係があるのだな。	○ 元との戦いが幕府へ与えた影響を捉えさせるために、御家人に対する幕府の対応を基に、御家人の気持ちについて類推したこと話し合わせる。
まとめる・広げる	元との戦いの様子とその影響	戦い方の違いに苦戦しながらも、一所懸命に戦い、元軍を退けたのだな。	○ 学習したことを振り返らせるために分かったことを歴史新聞に構造的にまとめさせ、新聞を基に幕府と武士との結びつきを中心とする時代の特色について説明させたりする。
	元との戦いの様子とその影響	命を懸けて戦ったのに、褒美がもらえないから、武士は不満をもったのだらうな。	
	4 追究してきたことを基に、学習問題を解決する。 御恩と奉公という主従関係を基に武士を統率し、全国を支配するための政治の仕組みを整えたから。	幕府は、御恩と奉公という主従関係を基に武士を統率し、全国を支配するための政治の仕組みを整えたから、全国を支配できたのだな。	
	5 これまでの学習を振り返り、鎌倉時代の特色について、歴史新聞にまとめる。	武士の時代の始まりについて詳しく分かったよ。	

5 本 時(4／8)

(1) 目 標

源頼朝が平氏を倒すことができた理由について、源平の戦いの様子や頼朝や武士の行動に着目し、義経の働きや所領に対する武士たちの思いを関連付けながら追究する活動を通して、頼朝が平氏を倒すことができたのは、頼朝の領地を認めることで多くの武士を味方にし、兵を率いた弟である義経が戦いの中での活躍によるものであることを捉えることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、武士が頼朝に味方した背景を捉えさせることが大切である。そこで、多くの東国の武士が頼朝に味方した事実を捉えさせ、「なぜ、武士たちは頼朝に味方をしたのか。」と問い、平氏の政治や土地に対する思いを関連付けて、頼朝に味方をした理由を考えさせる。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の追究 具 体 問 題 化	1 本時における追究問題を確認し、具体化する。 伊豆に流されていた頼朝が、なぜ、平氏を倒すことができたのだろうか。	(分) ↑	㊟ 年表(源平の戦いにおける頼朝の年表) ㊟ 地図(平氏の勢力図) ○ 頼朝が平氏を倒すことができた理由に問題意識をもたせるために、挙兵時の頼朝と清盛の勢力の違いを比較し、伊豆に流されていた頼朝が、勢力の大きい平氏を倒したことに矛盾を感じさせる。
追 究 計 画	2 予想を基に学習の進め方について話し合う。 〈予想〉 ・戦い方が上手だったから。 ・多くの武士が味方になったから。 〈追究の視点〉 →戦いの様子 →武士の行動	8	○ 見通しをもった追究ができるようにするために、予想を基に追究の視点を話し合う場を設定する。
追 究 問 題 の 究 明	3 一人調べをする。	×	㊟ 絵図(一の谷の戦いの様子) ○ 源平の戦いの様子を捉えさせるために、追究したことを交流させる。その際、義経の活躍を具体的に捉えさせるために、一の谷の戦いの絵図を提示し、義経の戦い方の工夫を話し合わせる(①)。
	4 頼朝が平氏に勝つことができた理由について話し合う。 (1) 源平の戦いの様子について話し合う。 (2) 頼朝や味方した武士の行動について話し合う。 頼朝が平氏を倒すことができた理由 源平の戦いの様子 ・義経が源氏軍を率いる。・平氏は西国に追いつめられる。 ・平氏軍に次々に勝つ。・壇ノ浦で平氏がほろぶ。 義経の活躍で戦いに次々に勝つ 東国の多くの武士が頼朝に味方をした(②) 平清盛の政治 政治を思うままに動かす 権力をもった理由 戦いに勝った後、天皇と親族になることで、強い権力をもつ 平氏に対する不満(③) 武士の思い 命のように大事な領地を守りたい(一所懸命) 領地を守るという頼朝の約束(④)	30	○ 平氏への不満や領地を認める頼朝の約束によって、多くの武士が頼朝に味方したことを捉えさせるために、源氏の石橋山と富士川の戦いの兵力を比較させ、「多くの武士は、なぜ頼朝に味方にしたのか。」と問い、その理由を話し合わせる。(②)。
	5 本時の学習についてまとめる。 平氏の政治に不満をもっていた武士たちの領地を認めることで味方を増やし、戦いの中で義経の活躍し、次々と戦いに勝利したから。	×	㊟ 文書(平時忠が言ったとされる言葉) ○ 平氏一族以外の武士の不満が募っていたことを捉えさせるために、平時忠の言葉を提示し、清盛の政治と関連付けて武士の気持ちを話し合わせる(③)。
ま と め	6 本時の学習について振り返る。 頼朝の行動や武士の思いに着目して追究することで、学習問題が解決することができたぞ。	7 ↓	○ 頼朝が武士の領地を認めることで多くの武士を味方にしたことを捉えさせるために、頼朝が武士を味方にするために行ったことを類推させる。その際、「武士が一番大切にしたのは何か」と問い、武士の土地に対する思いを関連付けて考えさせる(④)。その後、考えの妥当性を検証するために、吾妻鏡の一文を提示し、戦いの後の頼朝の行動を読み取らせる。 ○ 追究問題に対する自分の考えを再構成させるために、本時のまとめを、個人でノートに記述させてから、全体で話し合わせるようにする。 ○ 本時で働かせた社会的事象の見方や考え方の価値を捉えさせるために、本時の学習過程について、追究の視点や方法を振り返らせる。